

農村地域における住民の主観的幸福度の規定要因に関する質的・量的研究

田中 里奈

キーワード：主観的幸福度、農村地域、質的調査、重回帰分析、共分散構造分析、資本

1. 研究の背景と目的

近年、GDP等の経済指標が必ずしも社会の発展を測る指標になっていないという問題意識から、より質的・非経済的な要素も含めた新たな指標を導入しようとする動きが先進国を中心に広がっている。その際、究極的な目的とされているのが人々の「幸せ」を向上させていくことである。さらに最近は心理学等の研究の蓄積によって人々の幸せの程度の自己評価である「主観的幸福度」を科学的に扱う手法が確立されつつあり、現在は様々な国や地域で「主観的幸福度」を測定し、その規定要因を探る研究が活発に行われている。しかしその多くは大規模なもので、質問項目も個人に関わるものが主である。そこで本研究では農村地域を対象に質的調査と量的調査を組み合わせ、地域の特性を踏まえたうえで住民の幸福度の規定要因を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究では石川県珠洲（すず）市を対象地域とした。農村地域を対象とした幸福度の先行研究は非常に限られているため、本研究ではまず対象地域の住民21名を対象に質的調査（1対1の半構造化インタビュー）を行い、「地域に住むなかで幸せ／不満に思う事」について語ってもらった内容を質的データ分析ソフトで集計した。次にその結果得られた幸せ・不満に関する項目を先行の指標や研究の項目に追加して独自の質問票を作成し、市全域から抽出された2500人を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果は統計的に分析し、各項目と主観的幸福度の関係を調べた。さらに、経済学で用いられる4種類の資本（物的・人的・社会関係・自然資本）が地域に存在することを仮定して共分散構造分析を行い、各資本と幸福度との関係も調べた。

3. 結果と考察

(1) インタビュー調査

インタビュー調査の結果、以下のような項目が特に多くの対象者から挙げられた。

- ・ 幸せ…食材が入手できること、景色の良さ、人が少ない、自然を感じる、食べ物がおいしい、自由な時間
- ・ 不満…噂話や周りからの干渉、交通の不便さ、人が減っている、仕事がない

下線で示した項目は先行研究や他の自治体の指標ではほとんど扱われていないものであり、今回の対象地である農村地域に特徴的な幸福度の規定要因であると考えられる。

(2) アンケート調査

重回帰分析の結果、個人属性に関する項目を除くと以下の項目が有意となった。

- ・ 物的資本…住まいへの満足度、相対所得、子育て満足度、個人商店までの所要時間（負の影響）
- ・ 人的資本…健康的な食生活、運動の頻度、健康状態、精神的な健康状態
- ・ 社会関係資本…隣近所への信頼、集落内交流、噂話（負の影響）、役割のやりがい

このうち下線で示した項目は質的調査の結果をもとに本研究独自で追加したものであり、これらが幸福度に影響を与えていることが定量的に示された。また、自然資本に関する項目は重回帰分析ではいずれも有意にならなかった。さらに共分散構造分析の結果、主観的幸福度に与える影響の大きさは人的資本>物的資本>社会関係資本の順であることが示唆された。

4. 結論

本研究では生活の利便性や人とのつながり等の面で農村地域特有と見られる項目が幸福度に影響を与えていることや各項目の相対的な影響の大きさを明らかにした。これは今後の行政施策の参考になるものと考えられる。